

# 福音をロックで

## ギター片手にミニコンサート

「教会は人間が自由になるためのもの」。そんなイエスの福音をロックで伝えたいと、ギターを手に活躍中のルーテル教会牧師の関野和寛さん(38/日本福音ルーテル東京教会)のミニコンサートが12月16日、横浜市のカトリック中和田教会で開かれた(同教会・みんなの会主催)写真。参加者の大半を占めた高齢の信徒らも関野さんの熱い弾き語り聞き入り、福音を伝える仲間として出会えた喜びを分かち合った。

### 日本福音ルーテル東京教会の関野牧師

コンサートは待降節「歌舞伎町裏」の教へ傾けてきた関野さん。第3主日のミサ後に開く会の人々の悩みに耳を傾け、「愛とゆるしだけ



演。関野さんは、牧師が式服の上から肩に掛けるストロドマークの黒い革ジャンの上から着けた姿で現れ、初めてカトリック教会に招かれたことへの感謝と喜びを語った。

では対処しきれない現実の中にこそイエスは「おられる」と、革ジャン姿で地域に溶け込み、人々に寄り添ってきた。2013年から、牧師らによるロックバンド「牧師ROCKS(ロックス)」での宣教にも力を入れている。

この日は、困難の中、聖母マリアにささげる必死の祈りを想起させるような、一人の男性の心の叫びを歌い上げるなど、計4曲を、会場の反応を見ながら、いつもよりも抑えた音量・声量で熱唱。参加者の大半を占めた高齢の信徒たちも、さまざまなお出合いや救いのエピソードを織り交ぜた関野さんの弾き語り目を見て深くうなずいたり、拍手を送ったりして聞き入った。

同教会のマナリ真紀子さんは、福音を自由自在に語る関野さん

のエネルギーに触れ、「教会に新しいものが入ってくるのを感じて、3年前の受洗以来、一番「楽しい」時間だった」と言う。

#### 仲間として

コンサート後の昼食・交流会は、日野武満神父(85)の歓迎の

あいさつで始まった。食事の後、それまで話を聞いていた参加者にも声を掛けるため自ら席を移動した関野さん。そうした配慮にも場はすっかり打ち解け、話題は「教派の壁」にも発展した。

東京教会役員長の長谷川晃司さん(56)は、カトリック教会とルーテル教会の間にある、教会がルターを破門にした500年前の出来事に言及。今回、「勢いのある関野さんがカトリック教会で「いじめられるのでは」という不安もあったが、大変

に温かく迎えられる「少し安心」したと冗談めかして言い、この交わりについて教会に帰ったら仲間にも伝えたいと話した。

また、参加者の一人が、さまざま違いや隔たりを超えていく関野さんの宣教は、著書『すべての壁をぶっ壊せ』のタイトルそのもので感激したと語る。関野さんは、同書のタイトルは「編集者が決めたもので、自分の希望ではなかったのですが」と遠慮がちに説明した上で、そうしたインパクトも福音を伝える一助になるだろうと、宣教に懸ける

思いを語った。参加者たちは、この日の出会いを喜ぶ合い、福音を伝える仲間として共に「がんばっていきましょう」と励まし合った。

このコンサートは、関野さんのエッセーのファンだった同教会みんなの会担当の今井暁子さん(64)の提案が開催のきっかけ。信徒たちは、企画当初、高齢者の多い中和田教会では関野さんの表現が「過激」に映る可能性も心配したといい、それだけに今回の試みが成功したことを「奇跡」のように感じているという。